

# 徳泉寺報

No.0014

発行  
平成30年12月

発行元 徳泉寺

仙台市宮城野区  
榴岡3-10-3

(022) 297-4248

## お正月をお迎えしましょう



早いもので平成三十年も終わりを迎えます。この一年はどんな一年だったでしょうか。徳泉寺では、今年も肅々と縁有る方々のご葬儀や回忌法要をお勤めさせていただきました。また、この「徳泉寺報」を通して徳泉寺を知っていただく機会にも恵まれました。畑へ行ったり夏の子どものつどいを開いたり、さまざまな催しの会場としていただいたり。今年もまた、多くの方に足を運んでいただいて多くのご縁をいただいた一年となりました。私たちが生き生きと生きていけるよう願ってくださっている阿弥陀の願いを、みなさまにお届けできたいでしょうか。

さて、新しい年を迎えるとき、みなさんのお宅ではどんな準備をされますか。大掃除をしたりおせちを作ったり、毎年決まったお迎えの仕方があると思います。お仏壇はどうしていますか。

徳泉寺では本堂の大掃除をした後、お正月用に松竹梅の仏花を生けます。そして打敷（うちしき）と呼ばれる儀式用の敷物を敷いてお餅をお供えます。家庭のお仏壇（お内仏とも言います）も本堂と同じようにお掃除をして打敷を敷きます。

一般にお正月というと門松を立て、しめ縄を張ることがあるかと思いますがこれは仏事ではありません。門松はもともと「歳神様（とし

がみさま）をお迎えする時に神様が降りてくる目印として立てられたそうです。また、しめ縄は不浄なものが侵入してこないように印として張られたそうです。

真宗ではそもそも浄不浄を問いません。穢（けが）れを忌み嫌うという概念がないのでこれらが必要としないのです。また、同じ考えの延長として「喪」や「忌」に服するという概念もありません。ですから家族が亡くなった年でもいつもと同じようにお正月を迎えて構わないと言われます。ただ、身内を見送った喪失の中でいつもと同じようにふるまうことは難しいかもしれません。そんなとき心静かに過ごすために『喪中』があるのだとも言えます。

それぞれのご家庭でそれぞれの準備をしてお正月をお迎えできます。家庭の数だけお正月の数があることはなんとも素敵なことだと思われ

## リーディングパフォーマンス

「IMS やまねこ屋」さんの動く朗読劇、リーディングパフォーマンス「お寺 La・Laらいぶ」が去る11月25日に開催されました。来客数70名ほど。多くの方で会場の熱気もアツアツ。今年もおなかの底から響く声に圧倒されました。演目は北大路魯山人作『食道楽』絵本『ばけものつかい』など。1時間半のパフォーマンスがあっという間に終了しました。

